

ねん がつ にち  
2023年3月19日

し じゅんせつだい しゅじつ  
四旬節第4主日A

きくち いさおだい しきょう  
菊地功大司教 メッセージ

ヨハネ福音は、イエスが安息日にシロアムの池で、生まれつき目の見えない人の視力を回復するという奇跡を行った話を記しています。

この物語には、「見える」ということについて二つの側面が記されています。それは、実際に目で見ることと心の目で見ることの違いです。

それを象徴しているのは、今日の福音の終わりに記されている、目が見えるようになった人とイエスとの会話です。視力を回復した人には当然イエスの姿が見えていますが、それでもなおその人は、「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」とイエスに問いかけます。目の前に神の子は立っているにもかかわらず、見えても見えないのです。その心に向かってイエスは語りかけます。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ」。

心の目を開かれたこの人は、「主よ信じます」と信仰を告白します。

見えているのに見えない状態とはどのようなことなのか。福音はその少し前に、ファリサイ派の人たちと視力を回復した人とのやりとりを記しています。奇跡的出来事が起こったからこそ、この人を呼び出したにもかかわらず、ファリサイ派の人たちは、自分たちが作り出した枠を通してしか物事を見ることができていません。その枠からはみ出すものは、存在しないのです。ですから逆に、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と、いまの言葉で言えば逆ギレしたかのように裁きます。わたしたちは、自分の価値観に基づいた枠を作り出し、それを通じてのみ現実を知ろうとします。

同様なことがサムエル記に記されています。ダビデの選びです。預言者サムエルに、「人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」と神は語り

かけます。

今年ことしの四旬節しじゆんせつメッセージでシノドスの歩あゆみに触ふれた教皇きやうこうさま様は、こしう記しるされています。

「四旬節しじゆんせつのためのもう一つひとの道みちしるべです。それは、現げん実じつと、そこにある日ひ々びの勞ろう苦く、嚴きびしき、矛盾むじゆんと向むき合あうことを恐おそれて、日にち常じやうと懸かけ離はなれた催もよおしや、うつとりするような体たい験けんから成なる宗しゆ教きやう心しんに逃にげ込こんではならない、ということです」

人にん間げんの思おもいが生うみ出だしたわく 杵つうを通げんじてのみ現げん実じつを見みつめることも、また、宗しゆ教きやうに逃にげ込こむことにつながります。わたしたちは、心こころに語かたりかける主しゆの聲こえに耳みみを傾かたむけ、杵わくを捨すて主しゆご自じ身しんをまつすぐに見みつめるように招まねかれる主しゆに信しん頼らいし、主しゆとともに歩あゆんでいきたいと思おもいます。